（第3種郵便物認可）

震災5カ月 岩手で活動

静岡の市民団体が報

東日本大震災から5カ月の11日、岩手県内で
に取り組む市民団体「SAVE　IWATE
（静岡市葵区）は同区呉服町の市まちづくり支
で報告集会を開いた。会員らはこれまでの支援
すとともに、あらためて息の長い支援の必要
た。

支援活動に関する情報を共有し合う会員ら＝静岡市葵区呉服町で

成果や改善点

物産展開催も

ら二日間、銘菓や海産物などの岩手県産品を販売する物産展を開くことなどを決めた。

盛岡市を拠点に活動している関連団体「SAVE IWATE」の寺井良夫代表の「被災地で今必要なこと」と題する講演も。寺井さんは「子どもの心のケアや、失業者の再就職先の創出が急務」「五～十年程度の息の長い支援が必要」などと呼び掛けた。

支援活動などの問い合わせは、地域まちづくり研究所＝電054（270）6535＝へ。

「海抜11メートル」黄線で示す

焼津の缶詰工場の壁　津波避難の目安に

焼津市大住の「石田缶詰」工場のコンクリート壁に、黄色いラインと「海抜十一メートル」を示す看板がお目見えした。大きな津波被害をもたらした東日本大震災を教訓に「津波避難の目安になれば」と石田雅則社長が掲げた。

「海抜はどれくらいあるの」という住民の声がきっかけ。今月上旬に長さ八メートル、幅三十センチの横ラインをペンキで塗った。「黄色いラインは海抜約十一メートルです」と書かれた看板も設置した。

周辺の土地は海抜七～八メートル。工場は幹線道路に面しているため、ドライバーから見やすいように地上約三メートルの壁にラインを引いた。

石田社長は「土地勘がない人が震災にあったら、どこが高いか、低いか分からないはず。ラインを目印にしてほしい」と話す。

（高橋健一）

海抜11メートルを黄色いラインで示す「石田缶詰」＝焼津市大住で

レスリング世界選手権出場

長谷川、岡本選手

垂れ幕を掲げ応援

焼津市役所

レスリング世界選手権に出場する長谷川恒平選手（二六）、岡本佑士選手（二三）を応援しようと、出身地の焼津市役所に、長さ六メートルの垂れ幕がお目見えした。

世界選手権は九月十二～十八日、トルコ・イスタンブールで開催される。長谷川選手はグレコローマンスタイル55キロ級、岡本選手は同66キロ級に出場する。

二人ともレスリングクラブ「焼津リトルファイターズ」出身。焼津はレスリングが盛んな地域で、市民の関心も高い。

レスリング世界選手権に出場する長谷川選手、岡本選手を応援する垂れ幕＝焼津市役所で

ヒョウタン 形いろいろ

マラカスにバスケボール　山口さん丹精

駿河区の畑

「全日本愛瓢（ひょう）会」（本部・さいたま市）の技術開発委員長を務める山口茂さん（七四）＝藤枝市上藪田＝が、静岡市駿河区丸子の畑で、風変わりな形をしたヒョウタンを育てている。

約百平方メートルの畑に設けたツル棚には、二十品種のヒョウタンが何